

ベルリン テンペルホーフ公園 (空港跡地)

テンペルホーフ空港の跡地で、2008年10月30日に閉鎖されました。「こだわりライフ ヨーロッパ『飛行場を市民のもとに』(2010年8月1日BS放送)で、空港跡地利用について市が市民からアイデアを募集し、1400通が集まり話し合いが行われている様子が放送されました。その後の経過はわかりませんが、現在はターミナルや滑走路もちろんそのままの状態、自由公園になっています。390ヘクタール、サッカー場540個分の土地です。とにかく広い空港公園です。ガーデンスペースがあり、カイトをあげたり、スケボーや自転車に乗ったり、マラソンをしたりしている人がいました。地元の人が訪れる公園として、音楽フェスティバルやイベント会場として使われています。



1923年に空港として開港し、1933年にナチスが権力を持ち、ヒトラーによって空港拡張計画が進められ、エルンスト・ザーゲビルによってデザインされ、当時軍用に使われていました。戦後1947年、西ベルリンの主要空港の一つとして機能、1948年にベルリン封鎖、西ベルリンへの陸路は閉ざされ、西側諸国はこれに対抗し、物資の空輸作戦を行い歴史的舞台になった空港です。街中にあるこの空港の拡張が不可能で便数が減ったりしたため、赤字の増加や新空港の開港予定に伴い、閉鎖されました。

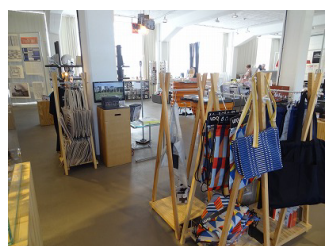


日本なら、土地が切り売りされ高層のマンションやビル、施設ができてしまうように思いました。何より市民の意見を徹底して聞くという姿勢に感心します。

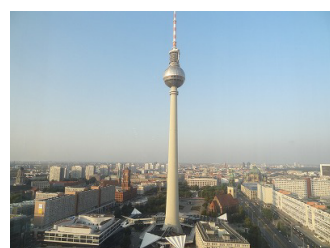
デッサウ バウハウス



バウハウスはドイツ語で「建築の家」を意味する工芸・写真・デザインなどを含む美術と建築に関する総合的な教育を行った学校。



1919年設立された。学校として存在し得たのは、ナチスにより1933年に閉校されるまでのわずか14年間であるが、その活動は世界の現代美術に大きな影響を与えた。



テレビ塔
1965年から1969年に建設。コンクリート製。高さ368m



ベルリン大聖堂



赤の市庁舎(ラートハウス、タウンホール) 1861年から1869年に建築。大空襲で破壊。1956年に再建



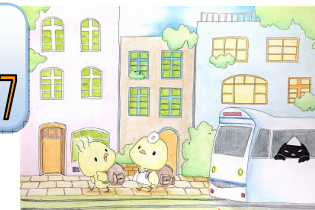
LRT(路面電車) まちの中をたくさん走っている。乗り降りも便利。



長生き団地と環境都市視察2016

ドイツ ベルリン、ライプツィヒ
フェルトハイム
オランダ アムステルダム 9/9~9/17

住まいとまちづくり空飛ぶ講座



時を経て魅力をます ジーデルング

100年の魅力

第110回の住まいとまちづくり講座は『空飛ぶ講座』として『長生き団地と環境都市視察 2016』を9月9日から17日に行いました。2010年のドイツツアーから6年、今回はドイツのベルリン・デッサウ・フェルトハイム・ライプツィヒ、オランダのアムステルダムに14名で行って来ました。ベルリンでは、世界遺産団地をはじめ、築90年、100年と経ている建物を視察しました。フーフアイゼン集合住宅(ブリッツ地区の馬蹄形団地)では、建築史家のお話を聞きました。ベルリンから南西に70km、ブランデンブルク州フェルトハイム村では、風力発電やバイオガスなどでエネルギーを自給自足している村の施設を見学しました。途中でデッサウのバウハウス(建築・工芸・写真等の学校)に立ち寄りました。



ライプツィヒでは、人口減や高齢化にともない、建物の老朽化を防ぐ改修だけでなく、高齢者の生活支援をするNPO団体の施設に使用したり、エネルギー循環型の改修を行ったり、住民参画型で緑地を増やす工夫をしている団地を視察し、都市再生局の方などからレクチャーを受けました。

ドイツのことですが、私たちの住まいや暮らし方のヒントがいっぱい詰まった視察でした。



ファルケンベルク庭園街

1913年~1916年建設



◆住宅・マンションのこと、なんでもご相談下さい ◆快適・長生き!めざそう100年

住まいとまちづくりコープ

〒174-0072 板橋区南常盤台 1-38-11 福興電気 1F 千代崎一夫/山下千佳
TEL 03-5986-1630 FAX 03-5986-1629
Mail sumaimachi@sumaimachi.net http://sumaimachi.net



ベルリンの世界遺産に登録されたジードルング

2008年カナダのケベック・シティで行なわれたユネスコ世界遺産会議にて、「ベルリンのモダン・ジードルング」(住宅団地)の登録が決定しました。ユネスコ世界遺産に登録された住宅団地は6カ所。これらは全て1913年から1934年にかけて建設された住宅団地で、第一次世界大戦からワイマール憲法の時期に起こった住宅不足に対する対策として、都市計画家であり建築家のブルーノ・タウトや、ハウハウスの初代校長ヴァルター・グロピウスなどが携わりました。そのコンセプトはキッチン、バス、バルコニーが付き、庭はありませんが十分に外気や光が取り入れられ、機能的かつ実用的な間取りでしかも割安な住宅というものです。そんな機能美を追求したジードルング建築は、その後の社会主義的住宅建築や都市景観に多大な影響を与え、今日では、シンプルなデザイン建築として高く評価されています。



ブリッツ(フーフアイゼン馬蹄形の集合住宅)

1925年~1930年建設



ブルーノ・タウト設計
住宅団地面積 37.1ha
緩衝帯面積 73.1ha
総面積 110.2 ha
1963 戸

オンケル・トムズ・ヒュッテ団地

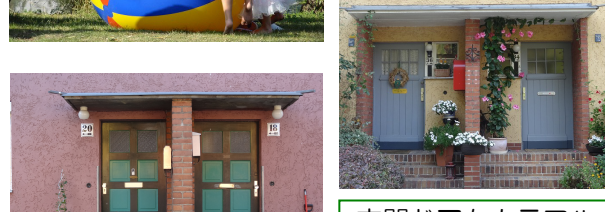
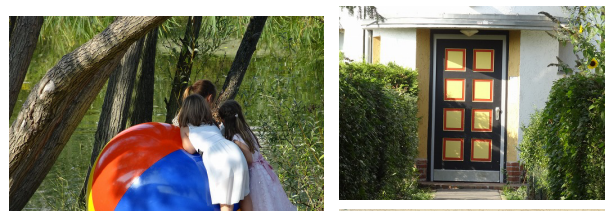
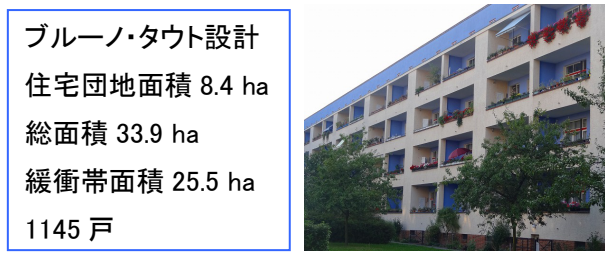
1926年~1931年建設

ブルーノ・タウトがベルリンの西郊に造った森の団地。規模が大きく全部で1952戸、486戸の独立住宅と2軒の家族を1棟とした住宅も含まれる。



カール・レギエン 1928年~1930年建設

ブルーノ・タウト設計
住宅団地面積 8.4 ha
総面積 33.9 ha
緩衝帯面積 25.5 ha
1145 戸



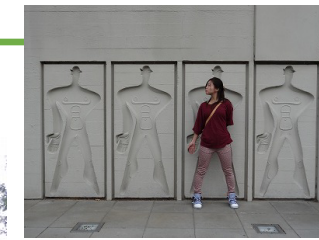
玄関ドアもカラフルで、それぞれに個性がある。

プレントラウアーベルク地区
シェーンランカー通りの集合住宅

1926年から1927年にかけて建設された。122戸で建築主はベルリン市の住宅供給公社ゲハーグ(GE HAG)で所有は団地・住宅共同利用会社。当時は不良な賃貸住宅が建っていた部分に、ブルーノ・タウトは集合住宅ブロックを建設し整備をした。第二次世界大戦で破壊され、1951年から1952年にかけて再建、1958年から1959年にかけてファサードを補修。さらに1998年から1999年にかけて記念建築物保全の修復が行なわれた。無機塗料が使われ、真っ青な外壁に白いテラスが映える。



ユニテ・ダビタシオン



人体スケール

ル・コルビュジエの設計 1957年に西ベルリンで開催された国際博覧会(特別博一建築展)の一環として建設。長さ157メートル、高さ53メートルあり、17階建ての建物には530人が住む。



コトブサーダム 2-3 番地



Kottbusser Damm 2-3, Ruine, vor 1977



1910年~1911年
1977年から1978年に再生された。

賃貸の商業建築。第二次世界大戦で壊滅的な被害を受けた。1階の店舗は使われているようだが、2階から上は廃墟の状態。外壁などスケルトン部分が残っているだけだった。

なぜドイツなの？

ヨーロッパやアメリカにも古い建物や住宅はたくさんあり、100年という単位では決して長いという訳ではありません。しかし、ユネスコ世界遺産に登録(2008年)されたコンクリート造りの集合住宅ということでは、建物の維持管理を考えるとときに比較として、また目標として紹介できるからです。

もっと大きな枠組みでは、2011年東日本大震災が起こり、福島第1原発の事故が起き、5年という時間しか経っていないのに九州電力川内原発(鹿児島県)の2基を再稼働させ、原発をやめるところか関西電力高浜3、4号機(福井県)と伊方3号機(愛媛県)の再稼働が予定されています。一方、ドイツは原発に反対し、代替えとなる自然エネルギーの活用を求める市民運動が活発となり、それと併せて政府が原発廃止を決め、エネルギー転換と省エネ、CO2削減の方向を打ち出した政策を積極的に進めています。

2010年のツアーでは、環境先進都市フライブルクで市と市民運動のグループのリーダーの方からレクチャーを受け、今回は「村」という小さい単位でエネルギーの自給自足に取り組んでいるフェルドハイムに行き、「ノイエ・エネルギー・フォーラム・フェルトハイム」という再生可能エネルギーに関する学習センターで話を聞き、見学しました。

日本で「原発ゼロ」を訴えながらも、住宅やまちでできる具体的な取り組みが、まちの活性化にもつながることを感じました。